

山形を考えるフォーラムメモ

高野先生

- ・コンパクトシティをめぐる状況を整理したい。日本語では集約型都市構造。もともとはヨーロッパの都市計画の理念、考え方であり、今、注目されているテーマである。
- ・その背景の一つが都市の郊外化と中心市街地の衰退である。都市の機能が拡散して、中心部が空洞化、商店街の活力低下は山形に限らず日本全国で見受けられる。
- ・コンパクトシティの都市像は、郊外化を抑制、スモールスケール（歩いていける範囲）を生活圏として捉え、住みやすいまちを目指すこと - いわゆる職住近接の都市である。
- ・現在、国の政策もコンパクトシティ。やはり、街が無くなることは都市の姿としておかしい。
- ・これまでのまちづくり三法が成功していないため、法改正、新しい展開へととなった。これまでは対処療法的である。
- ・これからどうするか - 。国に頼るわけにはいかない。自分達で考えていこうということで、前回、前々回と行われた。北原先生は実践的。鈴木先生は理論的。
- ・今回は、分野が違うが、それぞれの先生方の考えを聞いて、みなさんに考えていただきたい。
- ・まず、先生方が考えるコンパクトシティについてお聞かせ願いたい。

佐藤先生

- ・初めてコンパクトシティと出会ったのは新庄の流雪溝。
- ・雪国への対応を考えると、コンパクトシティにならざるを得ない。
- ・仙台は、地下鉄の線上に都市をまとめるコンパクトシティ。
- ・富山は路面電車の環状型。
- ・山形は三つのうち、どのパターンが良いのか？

山田先生

- ・ヨーロッパのコンパクトシティのルーツは環境から。
- ・アメリカは合理的な考えから。
- ・コンパクトで持続可能、住みやすい、それぞれの地域に合わせた形で。
- ・中心市街地活性化のためのコンパクトシティというは考えを改めるべき。
- ・リバブルシティ、サステイナブルシティ、コンパクトシティの概念があり、日本型コンパクトシティは特にどれはない。
- ・山形市北南ジャスコの商圈、山形市島地区の問題、仙台郊外店のモール及びダイヤモンドシティの問題がある。

温井先生

- ・農村からコンパクトシティを考えたい。
- ・山形にもコンパクトシティの可能性がある。

高谷先生

- ・人が住んでいるところ。小さくても個性をもっているところ。
- ・ヨーロッパは戦略として選んだ。
- ・日本はイメージがはっきりしない。共通のイメージが必要。
- ・コンパクトに住もうとしても映画館などの楽しさがなくなってきた。
- ・ライフスタイルを考えるべき。

スライドを用いた発表

佐藤先生

(子供育て環境が必要。まちを育てる。まちづくり=使うという視点。)

山田先生

(コンパクトシティの実情。境界があいまい。)

温井先生

(文化としての“農”。ミラノの話 山形市市街地近郊の話。)

高谷先生

(内川の話。鶴岡の息吹が感じられる話。自分達のまち、暮らしの文化、が残っていて、子供や孫など次の世代に引き継いでいく、新しい気配。)

質疑応答

Aさん

都市と農村の連携のあり方について。

山田先生

- ・農村部は今まで都市の背後地で都市に付随する。
- ・農村部で現存する文化をどう知らせていくか、知ることが都市の魅力につながる。
- ・経済活動は都市に集中していく。
- ・農村なのか都市なのか分からない地域が存在する。

温井先生

- ・今後どう捉えるか、制度以前にどうするのかを考えて、それに制度がくっついてくるように。

高野先生

- ・山田先生のグラデーションは 日本の実態を分かりやすく表している。
- ・ヨーロッパの土地利用は、牧草地、単作。日本は多様性。
- ・山形でも地域によって違う。食、農業産業資源、再発見してどう活かしていくか。
- ・システムの連携より、生活、ライフスタイルの中で見つけていく。

Bさん

- ・県内の都市のベクトルは郊外に向いているのでは。

山田先生

- ・土地利用の指標として地価。
- ・日本の都市と農村との関係、農業を生業として生活している人は少ない。農地より宅地として持っていたい人が多い。
- ・欧米では郊外開発は反対されるが、日本は呼び込んでいる。
- ・資産としての考え方が招く地価上昇。一方の中心部は生産性がないが故に下落している。
- ・地価の平準化、地価で見るとどこが中心か分からない。この構造は理論的ではない。

まとめ

高野先生

- ・農家の不動産投資に向く傾向はだいぶ前からある。営農意欲の低下に伴う都市の郊外化。
- ・いくつか夢のある話もあった。都市政策も大事だが、自らの生活について、どんな暮らしが良いのかを考えていく。
- ・貴重な資源もある。どう活かしていくか。
- ・車社会の次のステップでどんな筋道があるか。“歩くまち”がキーワードになるのでは。
- ・山形の四つの地域は、ほど良いスケール。それぞれに多様性がある。その多様性を認識していくことが山形らしさにつながる。
- ・世界遺産を目指す最上川は山形の地域性。世界に誇れる。
- ・これだけ雪のある都市は世界でも珍しい。一つの世界モデルになる。自信を持って。